

# 鏡野町「快適な生活環境の里づくり」計画【岡山県苫田郡鏡野町】

## 計画概要

清流、山林、水田などの豊かな自然環境と景観を誇ることの出来る、住みやすいまちをつくるため、公共下水道・浄化槽設置整備事業を一層推進し、汚水処理人口普及率の向上を図る。

## 地域再生計画の区域

岡山県 苫田郡 鏡野町の全域

## 計画期間

平成27年度～平成30年度

## 地域再生計画の目標

項目	現状	目標
汚水処理人口普及率の向上	83.7%	88.0%
人工林間伐実施率の向上	1.9%	2.5%
一等米比率の向上	69.1%	75.0%
河川水質（BOD）の向上	1.03mg/l	0.7mg/l

※最終年度に事後評価検討会を実施し、目標の達成状況を確認し公表。

## 地域再生を図るために行う事業

### <汚水処理施設整備交付金>

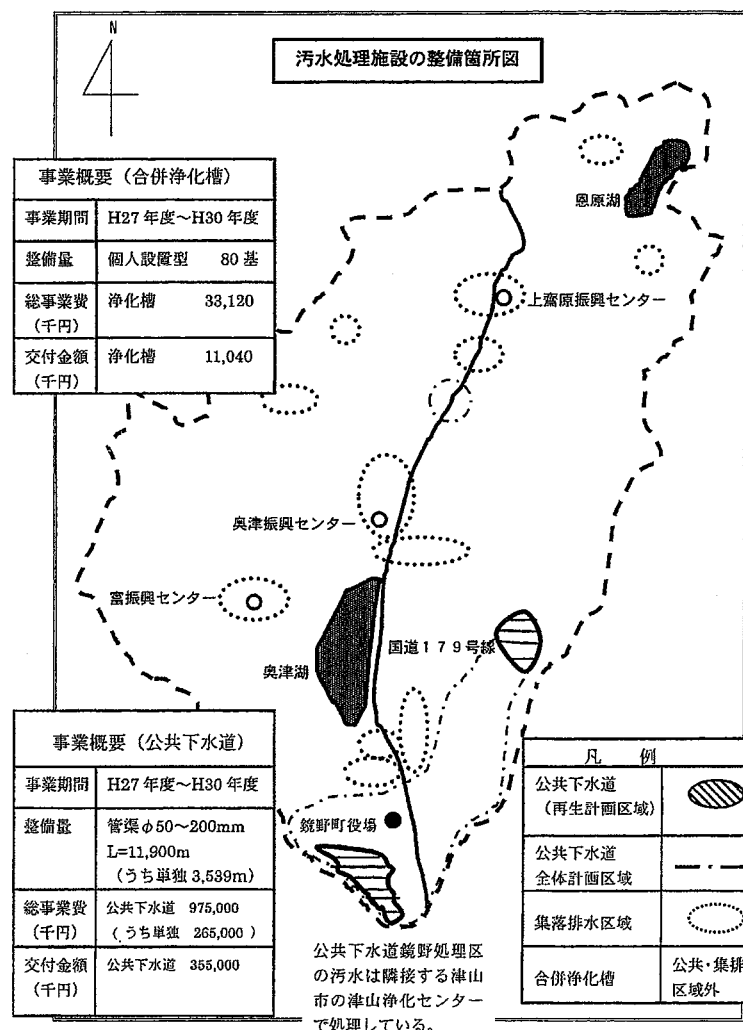
総事業費：1,008百万円（うち国費366百万円）

公共下水道 管路延長＝12,565m

浄化槽（個人設置型）80基

### <その他事業>

- ・新規就農者奨励補助事業
- ・住民、各種団体、企業等による町内清掃活動



地域再生計画(地方創生汚水処理施設整備交付金) 事後評価調書

都道府県名	岡山県	事業実施主体	鏡野町	地域再生計画名	鏡野町「快適な生活環境の里づくり」計画	
計画期間	平成27年度～平成30年度	事業担当課	上下水道課	事後評価機関	鏡野町かがみの創生総合戦略審議会	

	指標	基準値		中間目標値			最終目標値			達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
			年度	目標値	年度	実績値	目標値	年度	実績値	指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	汚水処理施設整備促進(汚水処理人口普及率)	83.7%	H25	86.0%	H28	89.2%	88.0%	H30	91.0%	4	3	公共下水道整備率の向上等により目標を大きく上回った。
	指標2	山林施業率の向上	1.9%	H25	2.2%	H28	2.5%	2.5%	H30	2.0%			最終年度については、目標値を下回った。
	指標3	農業生産力の向上(一等米比率の向上)	69.1%	H25	72.0%	H28	72.9%	75.0%	H30	75.6%			目標を上回ることができている。
	指標4	河川水質の向上(生物化学的酸素要求量(BOD)値)	1.03 mg/ℓ	H25	0.80 mg/ℓ	H28	1.00 mg/ℓ	0.70 mg/ℓ	H30	0.60 mg/ℓ			汚水処理の進捗等により目標を上回ることができた。
②事業の進捗状況	事業名	整備量(その他事業は取組内容)			事業の進捗状況に関する評価								
		計画	中間年度(H28)	最終年度(H30)									
特例措置を適用して行う事業	汚水処理施設整備推進交付金(公共下水道;鏡野処理区)	8,361m	4,885m	8,361m	目標値どおりの事業進捗となった。年度間融通等、本交付金の特色を生かしたことで、円滑な事業推進が行えたと考えている。								
	汚水処理施設整備推進交付金合併浄化槽(個人設置型)	80基	26基	40基	計画基数に対して50%の進捗にとどまった主な要因は計画年度途中に一部地区が下水道事業認可区域となり合併浄化槽補助金の対象ではなくなったため。								
その他の事業	合併浄化槽整備促進補助事業	合併浄化槽新規整備した個人に対して加算補助を行う			町独自の浄化槽に対する加算補助を実施することにより、合併処理浄化槽に切り替えの動機づけとなった。								
	新規就農者就農補助事業	新規に専業農家として就農する若者に奨励金を交付			後継者不在のため離農する農家の減少を図るための施策であり、担い手確保及び農村地域の活性化を目指したもので、今後も継続していく。								
	林業の振興	素材生産高増加施策 林業グループへの助成等			木材価格の低迷傾向が続いているが、間伐や作業道開設補助等の施策を継続して行っている。また林業グループへの助成も継続しているが、高齢化が進んでいる。								
	町内清掃活動	環境保全のため住民等による町内清掃活動			年1回の町内一斉清掃日や、各地区ごとの河川・道路等の除草等共同作業を通じて、環境保全活動の実践や意識向上に努めており、今後も継続していく。								
計画外独自事業													
③評価方法	令和2年1月30日(木)開催の鏡野町かがみの創生総合戦略審議会において検証・評価												
④事後評価の公表方法	鏡野町HPに掲載する。												
⑤計画全体の総合評価	計画策定時に立てた目標についても概ね達成できており、また年度間融通等の本交付金の特色を活用しながら事業を進めることができた。今後は、公共下水道への接続促進や合併浄化槽のPR等、ソフト的な活動も更に実施し、事業効果を最大限発揮できるようにしていく必要がある。												
⑥今後の方針等	今後については、公共下水道事業、合併浄化槽事業それぞれ独自の補助制度を活用しながら整備を促進し、引き続き快適な生活環境づくりを目指していく。												